



「舞座組」は、わらじまつりに参加していた福島市内のダンス教室や高校のダンス部の協力により誕生。子どもから大人まで総勢160人で、今年4月から練習を開始しました



信夫ヶ丘競技場で行われた東北絆まつりで披露するパレードの練習



「福響座組」は、福島市内の町会から集まった小学生から大人まで総勢133名のメンバーです。今年3月から始まったゼロから作り上げるというチャレンジ精神の塊のような練習は、参加者の距離を縮めました

令和元年8月、 新たな半世紀の第1歩を踏み出す 新しい「福島わらじまつり」

「福島わらじまつり」は、400余年続く早春の風物詩「信夫三山眺ま
いり」を元に、昭和45年から始まった福島市民の夏祭りです。福島わら
じまつり実行委員会は、半世紀にわたり親しまれてきた祭りの大胆なり
ニユールを決意。昨秋、総合プロデューサーに福島市ゆかりの音楽家
大友良英さんを迎え、今年3月から練習を重ねてきました。本番を間近
に控えた新しい祭りに懸ける思いを、渡邊裕太さん（福響座組座長）と白
山正樹さん（舞座組座長）に伺いました。

原点に立ち返り 祭りを一新

開口一番、半世紀続いてきた祭りを一新しようと思った動機をお二人に尋ねると「東日本大震災と東北絆まつりの前身、東北六魂祭がきっかけです」と話してくださいました。県外に出て自分たちの故郷の祭りを見つめる中で、さまざまな思いがフツフツと湧き上がってきたのだそう。「福島の子どもたちが自信を持って自慢できる祭りにしたい」「音源を流すのではなく昔からある太鼓、笛、歌で生演奏にしたい」。そんな思いを受け止めてくれたのが、福島市ゆかりの音楽家大友良英さんでした。

動き方「ナンバ」を取り入れ、健脚をイメージさせる足の動きに特徴がある覚えやすい振り付けにしました。両手に小道具「わらのわ」を持つて踊ります。歌い手は1番ごとに交代で歌い、12mの大わらじを担ぐときの「ワッショイ！」は、全員で声を出します。舞座組の座長白山正樹さんは「音楽と踊りが一体となるような楽しい演出です。しかも踊りの長半纏は、華やかな桃色。振り付けも弾む感じで勢いがあります。見て楽しい、踊ったらなお楽しい振り付けです。練習を見るたび「これはすごいことになる」と感じていきます」と目を細めます。

歴史が動く瞬間を 体感してください

8月の見どころを伺いました。「笛と太鼓で総勢130人になる福響座組の生演奏、大わらじ、舞座組の総勢400人が美しいフォーメーションで動く様子ですね。舞座組が表現する大蛇と日本一の大わらじとの戦いも必見。福響座組がみだれ打ちで盛り上げます」と渡邊さん。

また、今年も新旧の祭りを楽しめる特別な年でもあります。「新生わらじまつりは、世代も性別も国籍も超



福島わらじまつり実行委員会 舞座組 座長

白石 正樹 さん
昭和49年、青森県十和田市生まれ。大学進学で福島市へ。福島青年会議所時代にわらじまつりと出会う。青年会議所卒業後は、福島商工会議所青年部のメンバーとしてわらじまつりに関わる。昨夏、「わらじおどり」を担当し参加団体の取りまとめ役に引き続き新生福島わらじまつりでも舞を担当。「舞座組」座長として総勢160人の舞い手を引っ張る。



福島わらじまつり実行委員会 福響座組 座長

渡邊 裕太 さん
昭和59年、福島市生まれ。子どもの頃からお祭りが大好き。福島青年会議所では、まつり伝承会員拡大委員会に所属。同委員会として新生福島わらじまつりに関わるだけでなく、太鼓の奏者100人と笛の奏者33人で構成する「福響座組」を力強く支える座長。「舞座組」の座長白山正樹とは、旧知の仲。今回のリニューアル事業を牽引するツートップとして8月の本番を目指す。



これはすごいこと になる。本番に期待！

まず、6月の東北絆まつりに焦点を合わせて練習を重ねました。絆まつり
えて5年、10年とみんなで作り上げていくお祭りです。飛び入り大歓迎。一緒に楽しみましょう」と白山さん。この夏、劇的に進化を遂げる福島わらじまつり。歴史が動く瞬間をぜひ体感してください。



わらのわ

※3「わらのわ」は、わらで作った小道具です。各人がカラフルに飾りをつけて踊りを華やかにしています。

※1 脚本家の渡辺あやさんによる「わらじまつり物語」は、福島わらじまつり実行委員会のホームページで読むことができます。
<https://www.waraji.co.jp>

※2 右手と右足、左手と左足が一緒になる日本古来の動き方をナンバの動きと言います。

※4 実行委員会では、踊り手、歌い手、太鼓の叩き手を募集しています。詳細はお電話で。
■福島わらじまつり実行委員会
☎024-536-5511（福島商工会議所内）